



物流における課題と今後について

花王株式会社
SCM部門ロジスティクスセンター
山下 太

セグメント別の連結売上高

ケミカル事業



アスファルト特殊改質剤

油脂製品
機能材料製品
スペシャルティケミカルズ製品

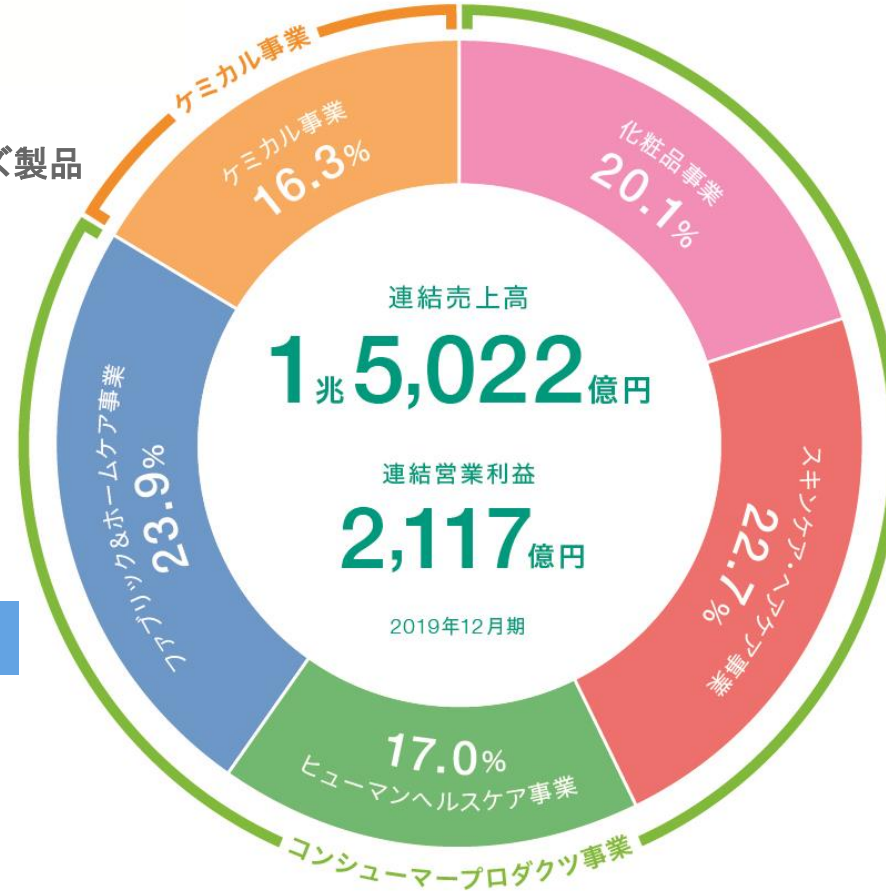


水性インクジェット用顔料インク

ファブリック&ホームケア事業



ファブリックケア製品
ホームケア製品



グラフの売上高構成比は、外部顧客に対する売上高で算出しています。
ケミカル事業の売上高には、セグメント間の内部売上を含みます。

化粧品事業



化粧品

スキンケア・ヘアケア事業



スキンケア製品
ヘアケア製品

ヒューマンヘルスケア事業



フード&ビバレッジ製品
サニタリー製品
パーソナルヘルス製品



花王の ESGコミットメントと アクション

My Kirei Lifestyle

2030年 花王のコミットメント

花王のアクション

快適な暮らしを
自分らしく
送るために

2030年までに
世界中の人々の、
まずは10億人をめざして、
よりこころ豊かな暮らしに貢献します。
より清潔で、健康に、安心して年齢を重ね、
自分らしく生きられるように。

QOLの向上

清潔で美しく
すこやかな習慣

ユニバーサル
プロダクト
デザイン

より安全で
より健康な
製品

思いやりの
ある選択を
社会のために

2030年までに
より活力と思いやりのある
社会の実現のために、
すべての花王ブランドが、
小さくても意味のある選択を
生活者ができるように提案をします。

サステナブルな
ライフスタイルの
推進

パーパス
ドリブンの
ブランド

暮らしを変える
製品イノベーション

責任ある
原材料調達

よりすこやかな
地球のために

2030年までに
2030年までに
すべての花王製品が、
全ライフサイクルにおいて、
科学的に地球が許容できる範囲内の
環境フットプリントとなるようにします。

脱炭素

ごみゼロ

水保全

大気および
水質汚染防止

実効性のある
コーポレート
ガバナンス

徹底した
透明性

人権の尊重

受容性と多様性
のある職場

社員の
健康増進と
安全

人材開発

責任ある
化学物質管理

プラスチック循環社会に向けて

使用済みプラ容器リサイクル技術の構築

高品質・低価格な再生プラ化と活用

リサイクリエーション推進

プラごみの産業用途への利用

リサイクル
イノベーション



プラボトルレス化の加速

リデュース
イノベーション

ホワイト物流の推進

廃棄物(製品、販促物)ゼロ化

プラアイキャッチシール全廃

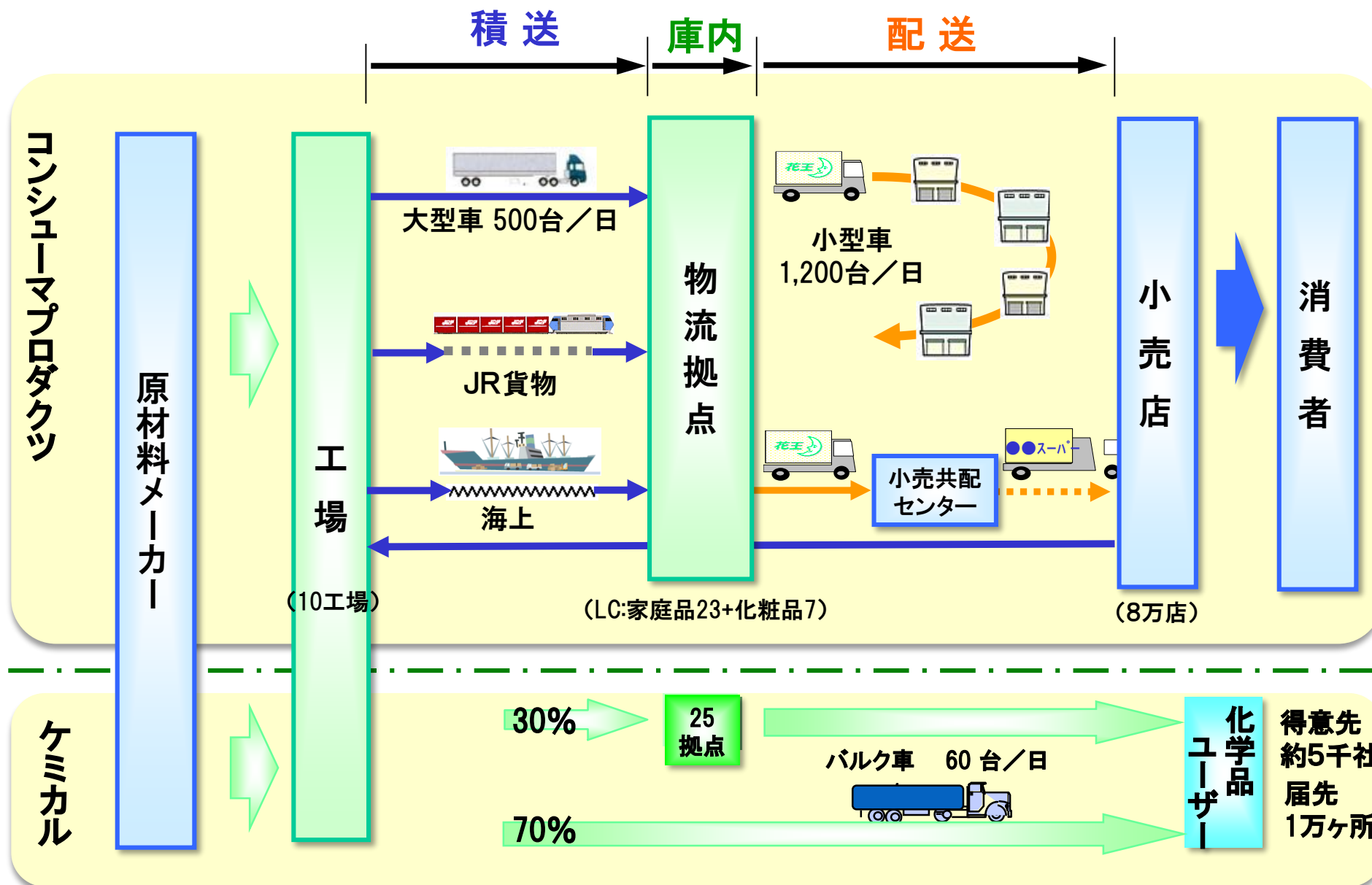


花王とライオン、フィルム容器のリサイクルへ協働開始

2020年9月10日



花王のロジスティクス活動





「物流危機」・・・
ドライバー不足で
モノが運べない



理由1 「運ぶモノ」と「運ぶ回数」増加

理由2 「運ぶドライバー」不足

卸売業配送件数 国交省 全国貨物純流動調査(物流センサス) ※5年毎調査

05年 **1120万件** → 15年 **1325万件** (118%)

トラックドライバー人数 総務省 国勢調査 ※5年毎調査

05年 **88万人** → 15年 **77万人** (88%)

⇒**抜本的、**
サプライチェーンの見直し必要

配送過程で発生する「ムダ・ムリ・ムラ」をなくし、
トラック台数/ドライバー拘束時間を削減
⇒「**持続可能な物流**」の実現へ



**予約発注
早期化**

- 車両数削減・輸送効率化
- ドライバー 労務環境改善

納品リードタイム確保(翌日納品化)

- 発注確保情報→ムダのない配車
- ※現状当日納品比率: 約30%

トラック(ドライバー)待ち時間緩和

- 車両台数削減・労働環境改善

センター通過物量の平準化

- 車両台数の平準化

《3月初旬に発注が集中》

- ・トイレトペーパー品薄問題
- ・前週比140%~190%の出荷
- ・首都圏中心に物流センターが混乱、一部未納・遅納の発生

《暫定対策》

- ・余裕がある物流拠点からの振替出荷
- ・他拠点から応援者による運営強化
- ・在庫僅少品の物流拠点への計画積送(マニュアル作業)
(通常は出荷予測に基づく自動積送)

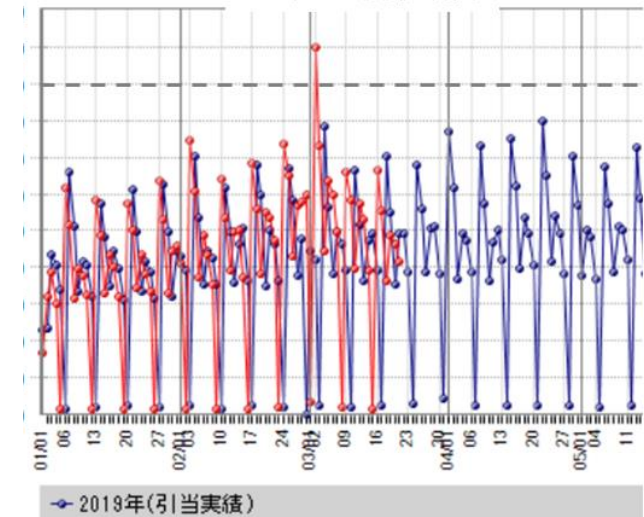
《物流拠点の感染予防対策》

- ・健康管理(体調確認、検温)、マスク着用、消毒清掃
- ・非接触型運営体制(伝票レス、デジタル化)の構築

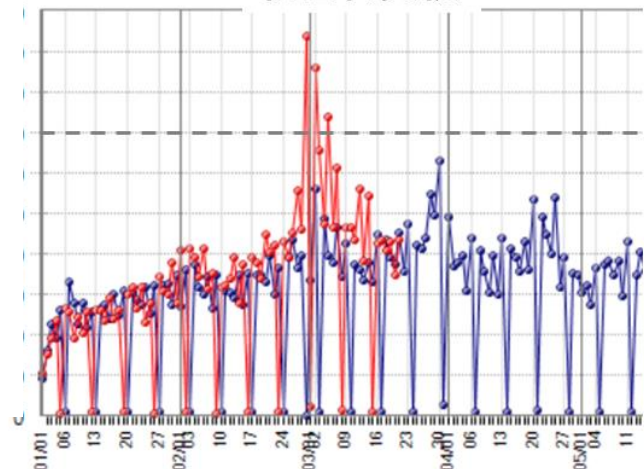
《今後の対応》

- ・需要予測の強化(突発受注の予兆予測)
- ・レジリエントな物流戦略(出荷能力の余裕度確保)

バラ出荷実績



梱出荷実績



関東圏の物流センターの出荷波動

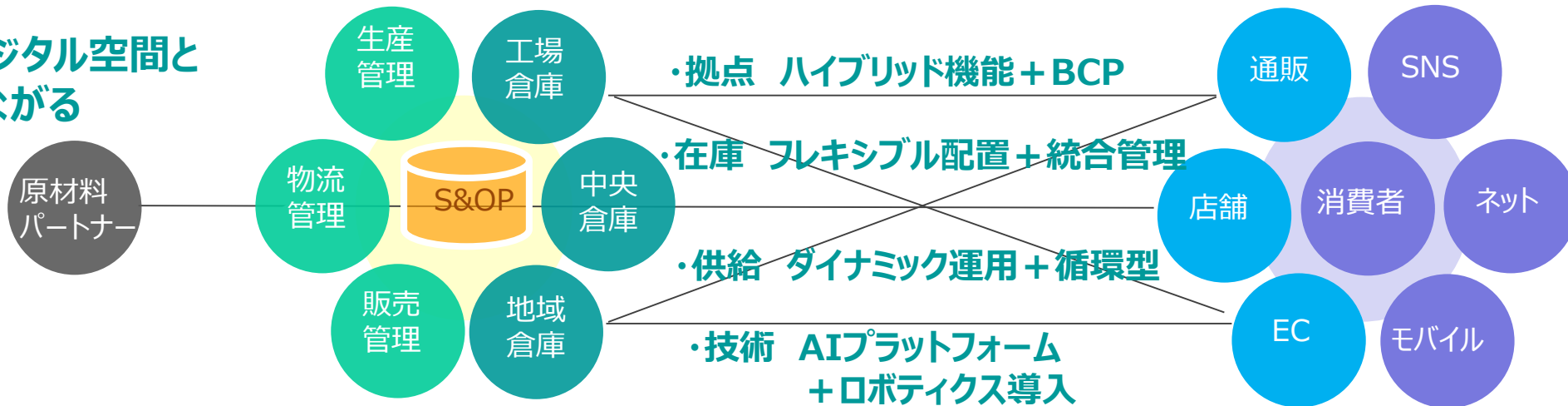


“Connected logistics for ESG”



③ 社会とつながる

② デジタル空間とつながる



① 社外とつながる

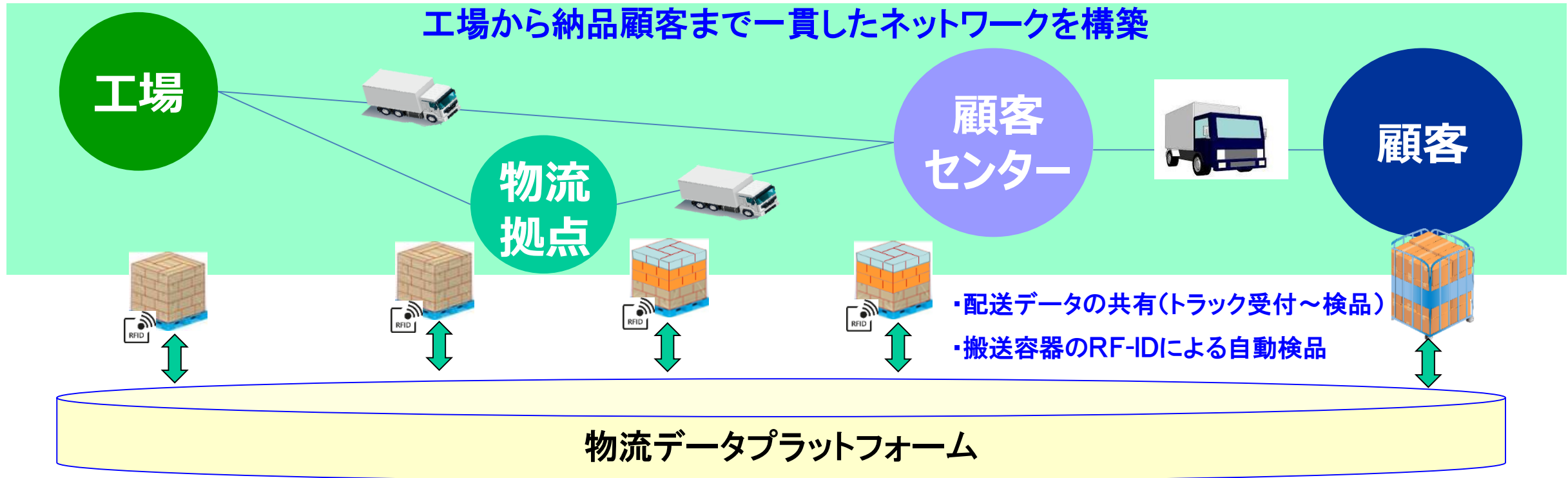


目指すこと

持続可能なコネクテッドロジスティクスの実現



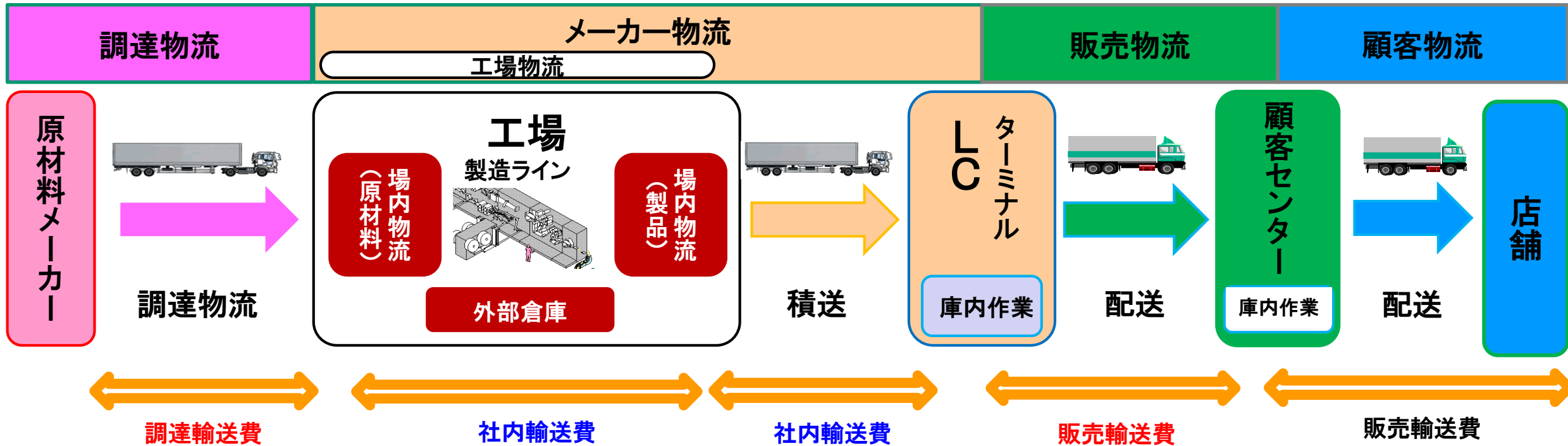
業務標準化とデジタル化によるデータプラットフォームの実現へ



- ・輸送手段の標準化、共有化（配送車／パレット／カゴ台車／オリコン）
- ・搬送容器と荷物の紐づけによる自動検品と伝票レスの実現（非接触運営）
- ・配送データのシェアリングによる複数企業による共同物流の実現



デジタル化による業務標準化の推進



○標準化推進のため、商慣習の見直し

- ・データ交換による伝票レス化
- ・搬送容器のデジタル化による非接触運営
- ・事前出荷データ(ASN)活用によるフレキシブルな納品条件
- ・運賃の適正化
- ・デジタル投資の推進(デジタル利用による変動費化)

付帯業務料



ラベル貼り

待機時間料



センターでの待ち時間



カゴ車仕分



Kao

Enriching lives, in harmony with nature.